



地域日本語支援ニュース こだま 第 346 号

2018.9.27



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ <日本語教育相談メールより>■

「～に比べて」と「～と比べて」の違いは？

公益社団法人 国際日本語普及協会 津田 訓江

2■ 高校進学進路ガイダンス情報（9、10 月）■

=====

1■<日本語教育相談メールより>■

「～に比べて」と「～と比べて」の違いは？

公益社団法人 国際日本語普及協会 津田 訓江

日本語ボランティアの現場からのご相談です。

——初級の学習者から受けた質問にうまく答えられなかった。

「～は、～に比べて～だ」という例文が出たとき、「～に比べて」はおかしいのではないかと私は「～と比べて」と勉強した、と問われた。「に」でも「と」でもおかしくないというのが、居合わせた日本人の皆さんにも確認した答えだったが、では、「に」と「と」ではどう違うのか？と聞かれて、はたと悩んでしまった。どう違うのだろう——というものです。

.....

日頃何気なく使っているものの多くは、改めて違いを説明しようとするとうんとうに苦労しますね。

「AはB [に／と] 比べて～だ」

この表現は二つのものがある基準をもって比較しています。居合わせた日本

人の方のお答えにあるように、「に」と「と」の入れ替えに違和感はなく、それは日常会話だけでなく、レポート等を含む書き言葉でも同様です。いくつか例文にあたってみるとやはり同じことが言えそうです。

昨年〔に／と〕比べて今年は稲の生育が良い。

彼は彼女〔に／と〕比べて仕事の進め方が慎重だ。

女性より男性〔に／と〕比べて平均寿命が長い。

このテレビはあっち〔に／と〕比べて画面が明るいね。

少し、変形させた次のような例文でも同様ですね。

太郎〔に／と〕比べると(比べれば・比べたら)、花子はずっと気が弱い。

音声入力機能を使うと、手で入力するの〔に／と〕比べて、楽でスピーディーだ。

では全く同じかという、どこか違うというのがネイティブ話者の感覚ではないでしょうか。こうした感覚が生まれるのには、「に」と「と」の持つ特徴が関係しています。

『国語大辞典』(学研)には「に」「と」の格助詞の用法の一つとして、その特徴が明快に示されています。

「に」：比較の基準を対象として示す。

～に基準を求めるとそれより(～だ)

「と」：(二つの対象が対となってはじめて成立する動作を伴い)対等の関係にある対の一方をあげるのに用いる。比較の対照される一方を示す。

注：上記の「に」の説明の中の(～だ)は、筆者による加筆

つまり、お尋ねの表現「Aは、Bに比べて～だ」は、Aを主体に、Bを比較の基準対象として示しているのに対し、「Aは、Bと比べて～だ」は、AとBを対等に挙げて比較するものとして扱っているということになります。私たちは、違いをどう意識するかには個人差もあるかと思いますが、感覚的にこうした用法をかぎわけて使っているのだと言えます。

「比較」ではありませんが、上記の「に」と「と」の特徴がもっと明確に出ている用法を思い起こしてみましょう。

AはB〔に／と〕相談する：

「に」の場合、Aは相談して何らかの助言を求める一方方向の対象としてBをあげています。

「と」の場合は、Bは相談という二者が必要な共同動作の対象として示され、双方向的な相談であることがわかりますね。

その他、「～〔に／と〕比べて」には次のような情報もあります。

- ・日本語能力試験対策本では、多くの場合「に」で取り上げられている。
- ・『日本語文法辞典【中級編】』The Japan Times では「に」で取り上げた上で「と」でも置き換え可能としている。

以上を参考に、もう一度先の例文をじっくり読んでみてください。いかがですか。

最後に、かの有名な百人一首第 43 番、権中納言教忠の歌：

あひ見ての のちの心に くらぶれば

昔はものを おもはざりけり

この歌の場合はどうでしょうね。これはやはり「に」でないと……などと味わいつつ、いろいろ考えてみるのも秋の夜長に楽しいかもしれませんね。
